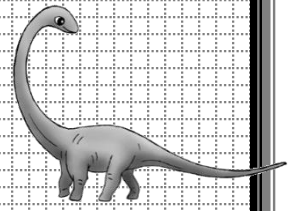


けんぱくものしりシート

きゅうし

マンモスの臼歯



マンモスは第四紀更新世（258万年前～1万年前）という時代に、寒冷な地域で生きていたゾウ類の動物です。そのころ地球全体の気温がとても低かったため海水面が下がり（※）、浅い海が陸地になりました。そして動物たちは陸から陸へと移動しましたが、日本でマンモスの化石が見つまっているのは北海道だけなので、岩手にマンモスは、やってこなかったようです。

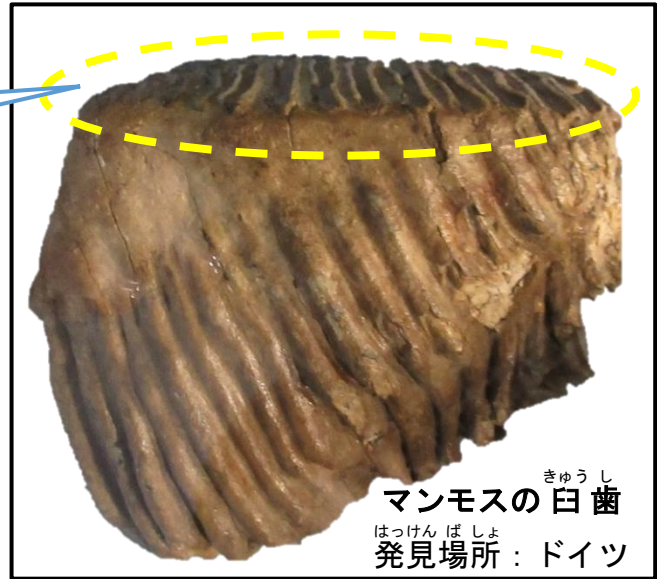
下の写真は、ドイツで発見されたマンモスの臼歯（奥歯）です。ゾウ類の臼歯の生えかわり方は、人間の歯とはまったく、ちがいました。次のページでそのようすをみてみましょう。



かみ合わせ部分



<マンモス復元模型>

マンモスの臼歯
発見場所：ドイツ

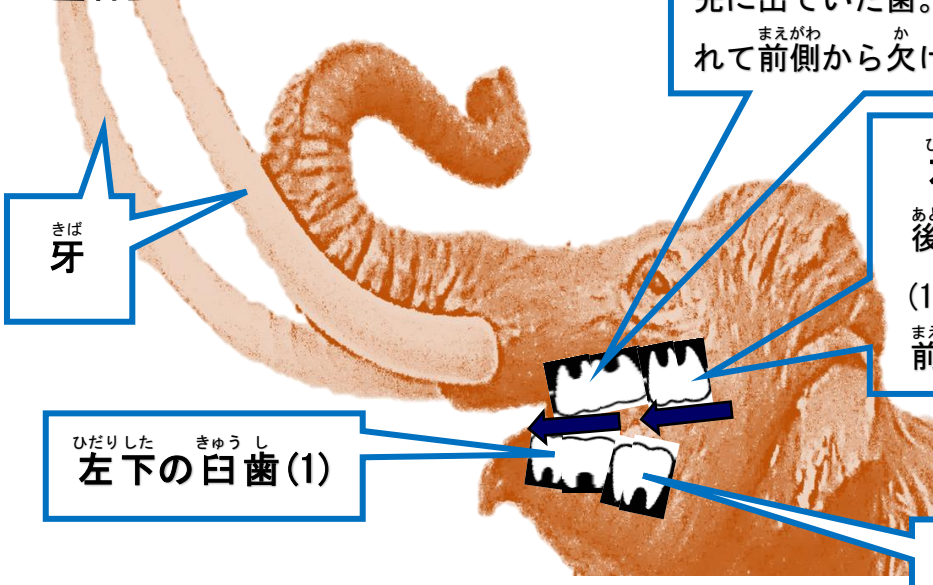
※気温が低いと海水面が下がる主なしくみ

- ①海水が蒸発し雲になって雪を降らせる
- ②陸に積もった雪が氷河になって陸にとどまる
- ③海にもどる水の量が減る
- ④海水面が下がる



*他に、海水の体積が小さくなることもあげられます。

きゆうし は とちゆう
臼歯の生えかわり途中のようす



ひだりうえ きゆうし
左上の臼歯(1)
 さきで は お
 先に出ていた歯。(2)に押
 れて前側から欠けていく。

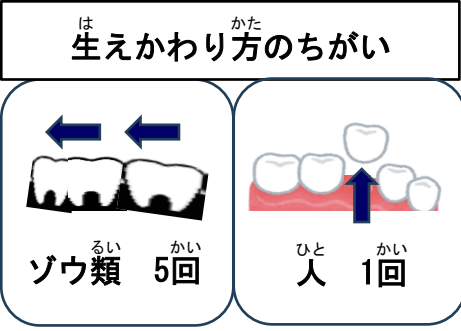
ひだりうえ きゆうし
左上の臼歯(2)
 あとで は
 後から出てきた歯。
 (1)を押し出しなが
 ら前へ移動して
 いく。

きば
牙

ひだりした きゆうし
左下の臼歯(2)

マンモスをふくむゾウ類の歯には、臼歯と牙の2種類があります。

1本の臼歯は、前のページの写真のように板状の歯が何枚も重なってできています。臼歯の生えかわり方は、奥から生えてきた歯が、すでに出ている



歯を前方に押し出す、水平交換という方法なので、人間のように歯がぬけて、すきまができることはありません。臼歯は原則として上下左右に1本ずつ、計4本しかありませんが、生えかわりの途中でも2本の歯で1本分の役割をはたし、

いつでも歯がある状態をたもちながら、一生の間にそれぞれ5回も生えかわります。また、牙は2本あって、生えかわらずに一生のび続けます。

引用・参考 ミュージアムパーク茨城県自然博物館 2014年 『第62回企画展マンモスが渡った橋—氷河期の動物大移動—』 / 国立科学博物館 2014年 『太古の哺乳類展—日本の化石でたどる進化と絶滅—』 他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



岩手県立博物館
 〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

HPIにてバックナンバー公開中!

けんぱくものしりシート

『マンモスの臼歯』

2025年1月発行 地質—No.30

■参考文献

- ・ミュージアムパーク茨城県自然博物館 2014年 『第62回企画展マンモスが渡った橋—氷河期の動物大移動—』
- ・国立科学博物館 2014年 『太古の哺乳類展—日本の化石でたどる進化と絶滅—』
- ・豊橋市自然史博物館 2012年 『第27回特別企画店でっかい動物化石解説書』
- ・読売新聞東京本社 2013年 『特別展 マンモス「YUKA」シベリアの永久凍土から現れた少女マンモス』